

三河八橋～豊田市間

# 豊田市内の開業百年駅

豊田市内の三河八橋～土橋間は、大正9年7月5日に開業。上挙母は同年8月31日に開業し、挙母(現・豊田市)は、大正9年11月1日に開業、共に開業100年目を迎える。



三河八橋



若林



竹村



土橋(名鉄資料館所蔵)



上挙母



挙母(豊田市…撮影者不明)



三河八橋・高架駅に…平成 22 年 12 月 12 日

# 三河八橋

開業…大正 9 年 7 月 5 日

駅名「三河八橋」と決定するまで紆余曲折あり「八橋」は知立町、駅所在地は花園町(旧・高岡町)。



平成 21 年 12 月 27 日



左・平成 21 年 12 月 11 日



右・12 月 12 日高架切り替え

# 三河八橋

碧海郡高岡村大字花園(現・豊田市花園町)に三河八橋駅がある。

高岡村(現・豊田市花園町)地内にあるのに何故、駅名は三河八橋か。三河八橋駅は初当知立町大字八橋字五輪に内定していたが花園地区に設置した方が乗客も多く、里(現・安城市里町)の人々も利用できるのではと花園から請願書が出された。三河鉄道もこの案を採り入れ八橋と花園の境で逢妻川の出水も考慮して、花園地内に決定し、駅名は「花園駅」で決定かと思われたが、山陰線に花園駅があり断念。いろいろ候補にあがったが、結局「三河八橋」と決定したという。



(名鉄資料館所蔵)

八橋と言えば、愛知県の県花「カキツバタ」で有名な無量寿寺が駅近くにある。平安時代の歌人・在原業平が句頭にカキツバタの5字を入れて「からころも きつつなれにし つましあれば はるばる来ぬる たびをしぞ思ふ」と詠んだように伊勢物語の時代から知られた「カキツバタ」の名勝地である。



毎年5月10日前後に「ミスかきつばたの撮影会」が園内で開催されています、



若 林  
開業…大正 9 年 7 月 5 日



# 若林

当駅南の吉原町は「高岡茶」の産地。吉原町は1965(昭和40)年8月31日まで碧海郡高岡町大字吉原であったが、高岡町が同年9月1日、豊田市に編入合併したため、以後、「豊田茶」と呼称するようになった。

緑茶の中でも旨み香りが優れている“かぶせ茶”や抹茶の原料となる“てん茶”を主に栽培しているという。

豊田茶の起源は、文化文政(1804~1829)の頃、八橋(現・知立市)の無量寿寺の住職・梅谷売茶翁が、お茶を薬用効果のある飲み物として全国に説き広めたという。花園村で栽培されたのが始まりで、隣の北中根村、吉原村(いずれも現・豊田市花園町・中根町・吉原町)に茶園が増加し、刈谷藩の茶を賄っていたという。明治24(1891)年、吉原村の内藤嘉十が製茶を始めたため吉原村の茶業が一段と盛んになっていった。

電車に乗って、三河八橋駅から若林駅へは、花園町・中根町・**吉原町?**を通り若林東町にある若林駅に着く。さしずめ茶園の電車道。私が車掌当時(昭和30年代)、三河八橋を出ると茶畑が点在しており、秋の紅葉の季節になると栄生から西中金まで「かえで号」が運転されて、その案内文に「高岡町吉原地区の茶園」のことが案内文に記してあったと記憶にあるが…。

今回、改めて電車の先頭部に乗って茶畑を捜したが、そのお茶畑も住宅街に変身し車窓から姿を消していた。茶畑を見るには、若林駅の南側(吉原町)の丘陵地へ行かないと見る事はできない。

## 参考資料

1905(明治38)年5月1日、駒場村・花園村・堤村・竹村が合併して「高岡村」となる。

1956(昭和31)年5月1日、町制施行

1965(昭和40)年9月1日、豊田市に編入合併





竹 村

開業…大正9年7月5日



## 竹村

終戦日の前日、昭和 20 (1945) 年 8 月 14 日 13 時頃、土橋を発車した上り三河吉田(現・吉良吉田) 行の 1200 列車が土橋を発車し竹村駅手前に差しかけたとき、アメリカ空軍の戦闘機の銃撃を受けた。高岡町誌によると死者 2 名重傷者 75 名とある。

昭和 30(1955)年代に入ると若林～竹村間の丘陵地に沿線で一番早く新興住宅が次から次へと建ち、あっという間に一大住宅街を形成した。

昔と一番変化がないのが竹村駅周辺である。特に駅西側一帯はのどかな田園地帯。この田園地帯に 2000 年頃から、休耕田を利用して初夏になると散策者が足を止めて、蓮の花をカメラでパチリパチリと撮っている。今ではカメラよりスマホで撮っている人が多いが…。

蓮の花は、1965 年頃に作られた品種で「ミセススローカム」です。花色は初日に淡い紅色で全体に黄色味を帯びており、二日目以降赤の退色が著しく、赤は花弁先に残るのみで中心部は淡い黄色となる。地元の人に聞くと「最近では遠方から自動車」でやって来る人が多とか。

昭和 27～30 年頃、沿線の各地で給与者連合会が誕生している。一色支部(松木島・三河一色・西一色)、平坂支部(三河平坂・中畑)、知立支部(重原・知立、三河八橋)、高岡支部(若林・竹村)などの給与者連合会が寄付した“善意の傘”が駅に置かれ、雨の日に「お気軽にお使いください」と改札口付近に出ていた。

新知立駅が誕生し、知立乗務区も刈谷構内から知立駅舎の一角に移転したが、新知立駅になった昭和 34 年 4 月 1 日以降でも、雨の日には“善意の傘”が改集札付近に置かれていた。雨の翌日には、構内の片隅に雨傘が日影干しにしてあるのをよく見掛けた。



竹村駅西側の田園地帯に蓮が群生…令和元年 6 月 20 日



# 土 橋

開業…大正9年7月5日



平成22年3月27日…橋上駅化



平成 22 (2010)年 3 月 27 日新築



平成 7 (1995)年 3 月 11 日新築



駅舎の回りは自転車の山



昭和 34 (1959)12 月末 改築

(名鉄資料館所蔵)

## 土橋

土橋駅は駅舎の改築・新築を繰り返し現在に至っている。昭和 34(1959)9 月 26 日の伊勢湾台風で罹災し、駅舎 2 代目が完成したのは、12 月末だったと思う。3 代目の駅舎は平成 7(1995)年 3 月 1 日、豊田線の増強で 2 階が乗務員の合宿所付で新築された。乗務員合宿所が新設されたのは、同駅構内が豊田線車両の留置線及び停泊線として使用したためである。

急激に人口が増大した上にトヨタ自動車の元町工場があり、タクシーや乗用車の乗り入れで元々狭い駅前は大混雑。それを解消するために南北自由通路併用で 4 代目の駅舎・橋上駅が平成 22 (2010)年 3 月 27 日に完成。併せて南北駅前に広場も設けて、付近の人も南北通路を利用すれば踏切で待たずに通行でき、電車利用者もイライラが少しは解消できたのでは…。乗客も通行者も長年の悩みがここに解消した。島式の複合型ホームで 2 面 3 線です。また、豊田線車両の留置線を兼用し、側線 3 本と行止り線 1 本有している。

ここ土橋はトヨタ元町工場が昭和 34 (1959)年 8 月に操業を開始した 1 年後の昭和 35(1960)年 8 月、元町工場まで貨物専用線が新設されたが、自動車の波に押され、昭和 49(1974)年に廃線となった。



1700 系・乗務員の教習車として土橋に入線 平成 20 (2008)年 12 月 11 日



開業以来の駅舎で頑張っています。



左の側線は旧・挙母線の分器線の面影を残す

## 上挙母

開業…大正9年8月31日



開業以来の駅舎…第一線で活躍中です。





## 上挙母

大正 9(1920)年 8 月 31 日に開業した駅舎が、まだ一線で活躍している長寿の駅舎である。

昭和 2(1927)年 4 月 16 日、三河鉄道は岡崎電気軌道(岡崎市内線と郡部線の大樹寺～門立間)と合併し、翌々年の 12 月 18 日、岡崎線(後の挙母線)上挙母～三河岩脇間 6.4 km が開通(鴛鴨・渡刈・上市場・三河岩脇の 4 駅開業)。岡崎電気軌道と合併した郡部線と結び、挙母～岡崎ルートを確立した。

三河豊田駅は昭和 12 年 12 月 27 日開業(昭和 34 年 10 月 1 日に「トヨタ自動車前」に駅名改称)

同駅はで変則的な島ホームの 2 面 4 線であった。1 番線が貨物線、2 番線が挙母線の着発線、3 番線が上り線、4 番線が下り線。昭和 36(1961)年に貨物営業が廃止されるとホームを拡幅して 2 面 3 線にし、挙母線を中線(2 番線)にして左右共ドアを開け、上り列車(1 番線)下り列車(3 番線)の乗換えをスムーズにした。また、土橋方に名鉄では珍しい三枝分岐器を挿入したこともあった。

昭和 48(1973)年 3 月 4 日、挙母線が廃止されると 1 面 2 線の島ホームになり現在に至っている。



左は挙母線・大樹寺行…挙母線は昭和 48(1973)年 3 月 4 日廃線 右は三河線・碧南行



# 挙母(現・豊田市)

開業…大正9年11月1日

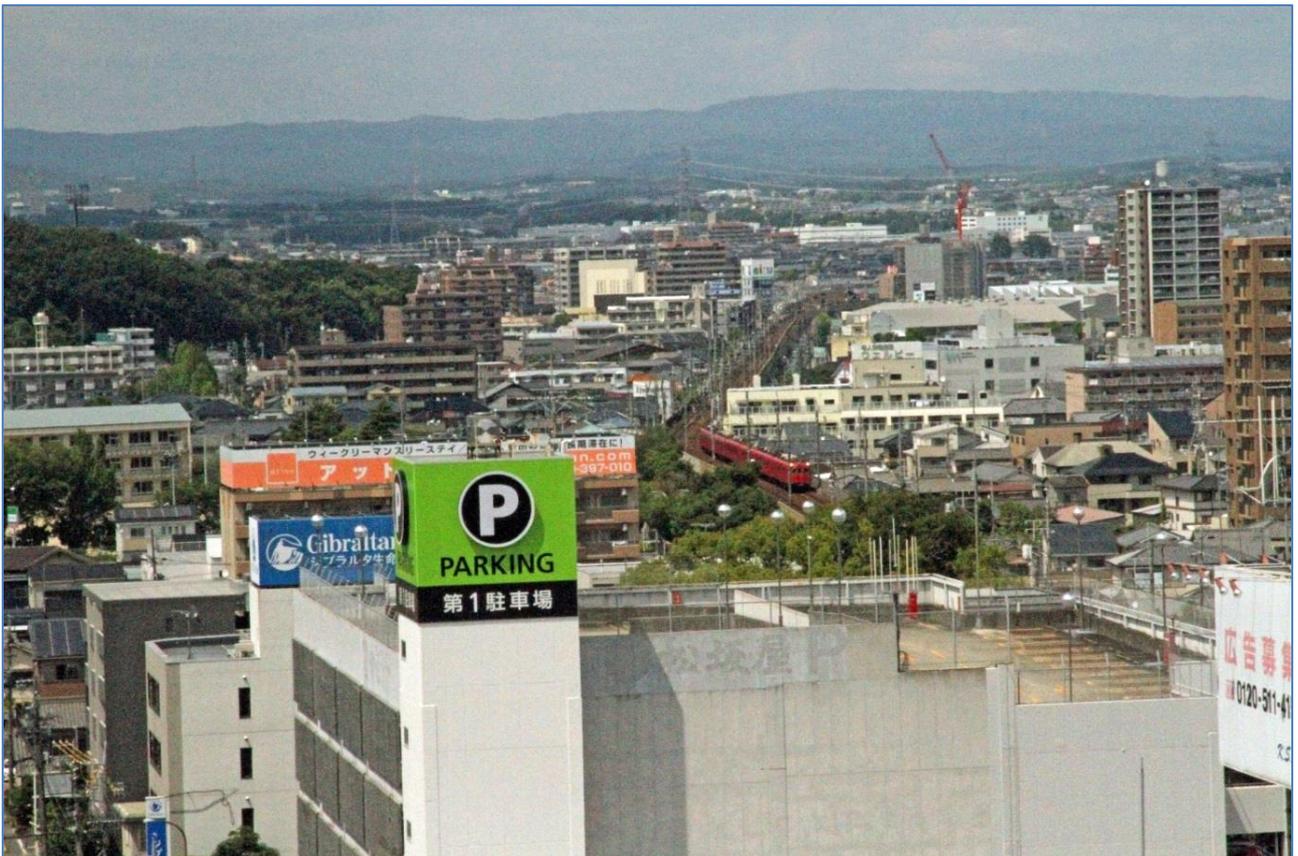


撮影者不明





豊田線 30 周年記念の発車式…平成 21 年 7 月 29 日



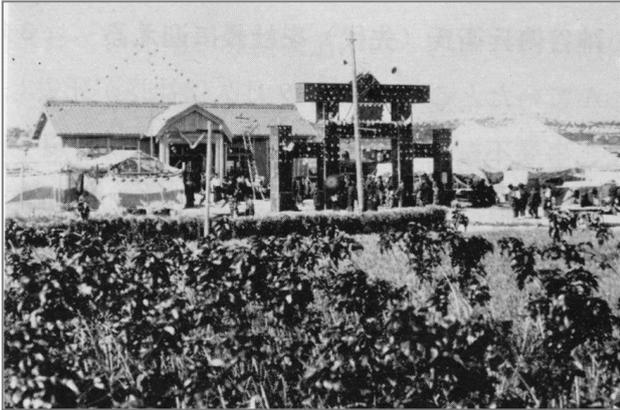
松坂屋豊田店の屋上から 100 形をパチリ



豊田市駅 2番線(豊田線の着発線)

**豊田市 (挙母)** 豊田市駅は人口 43 万人の玄関口。開業は大正 9 (1920)年 11 月 1 日、奇しくも明治神宮の創建日と同じである。

明治神宮は明治天皇と昭憲皇太后を祭神とする神社で、初詣では例年日本一の参拝者数を誇る。明治神宮の正式な表記は、宮の呂の中間の「ノ」がない「ム」の字を使用する。



開業日前日(大正 9 年 10 月 31 日)に祝賀会…七州  
城沿革小史より。(名鉄資料館所蔵)



明治神宮



飛躍の女神・除幕式…昭和 35 年 7 月 7 日  
(名鉄資料館所蔵?)



第一鳥居



東西連絡地下道・地下駅・トヨビル(2F)開業  
昭和 36 年 7 月 24 日  
(名鉄資料館所蔵?)



第二鳥居



現在の豊田市駅



第三鳥居…創建以来の建て替え…平成28年10月26日  
平成29年10月26日撮影

挙母駅として誕生し、挙母市が豊田市と市名改称の10か月後の昭和34(1959)年10月1日に豊田市駅と改称。ホームは地上駅、地下駅を経て現在は高架駅(駅舎は2階)「完成は昭和60(1985)年11月1日」。島式の複合型2面3線ホーム。1、3番線は三河線。2番線は行止まり線で豊田線の着発線であるが例外がある。土橋から出庫する列車は1番線から、反対に土橋へ回送する列車は3番線に到着する。

豊田市内に駅は何駅あるだろうか？ 初めて数えてみた。三河&豊田線では、三河八橋・若林・竹村・土橋・上挙母・豊田市・梅坪・越戸・平戸橋・猿投・上豊田・浄水と12駅。愛環鉄道では、三河上郷・永覚・末野原・三河豊田・新上挙母・新豊田・愛環梅坪・四郷・貝津・保見・篠原・八草の12駅。併せて24駅。廃線区間の三河御船・枝下・三河広瀬及び西中金を加えれば、最多時28駅もあったことになる。愛知県第2の都市にふさわしい？ 駅数で…。



昭和36(1961)年7月、東西連絡通路が完成し地下駅化、昭和45(1970)年2階から4階に増築  
(名鉄資料館所蔵)



豊田市～上挙母間の高架工事…昭和60年5月頃  
(名鉄資料館所蔵)



名鉄トヨタホテル開業…平成7年5月1日  
(名鉄資料館所蔵)



(名鉄資料館所蔵)



刈谷～知立間開業100周年記念発車式が平成27年11月3日、知立4番線で行われた。  
場所も期日も異なるが…。(三河知立は駅員無配置駅だから敬遠？ 期日は10月28日だが？…)





合成写真です

# 3700形の車体塗色の変化

昭和32年10月1日 ライトピンクとダークマルンでデビュー

通称…チョコツートン



昭和41年7月12日から順次「ライトパープル」色に



(ライトパープルは線路係員に不評のため1年の寿命)

昭和42年7月13日から順次「ストロークリームとスカーレット帯」色に



昭和51年10月から順次 7000系と同色のスカーレット色に

